

2019年度 地域における地球温暖化防止活動促進事業

「登別市 地球温暖化に関する市民意識調査」

調査結果

令和2年2月

北海道地球温暖化防止活動推進センター

1 調査目的

本調査は、登別市における今後の温暖化対策の施策検討に向けた基礎知見として、市民のCO₂排出に関わるライフスタイル特性や市の環境施策に対する意向等を把握することを主目的として行いました。

2 調査概要

(1) 調査主体

本調査は、北海道地球温暖化防止活動推進センター（公益財団法人北海道環境財団）及び登別市が主体となり連携実施したものです。

(2) 調査期間

令和元年（2019年）11月～12月

(3) 調査対象

登別市民 1,000人（住民基本台帳から18歳以上を無作為抽出）

(4) 調査方法

調査票を郵送し、返信用封筒により回収

(5) 調査内容

地球温暖化に関する認識、省エネルギー行動実施状況、次世代自動車等導入状況、再生可能エネルギー等設備導入状況、暮らしの質や地域の豊かさと温暖化対策の関連性、温暖化対策の市施策への意向 等

※ 詳細は報告書末尾の調査票を参照

(6) 回答数（回答率）

368人（36.8%）

※ 回答最終受付日：令和2年1月6日

(7) その他

本調査においては、ハイブリッド車、電気自動車、クリーンディーゼル車、燃料電池自動車、プラグインハイブリッド車、天然ガス自動車を「次世代自動車」として取り扱っています。（参考：『次世代自動車ガイドブック 2018-2019』環境省・経済産業省・国土交通省）

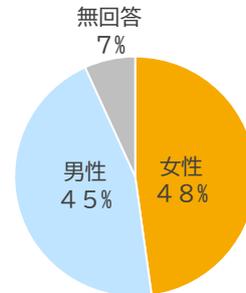
本調査では、集計結果の数値を小数点以下第1位で四捨五入しています。したがって、構成比の合計が100パーセントにならない場合があります。

3 調査結果

3-1 回答者の属性

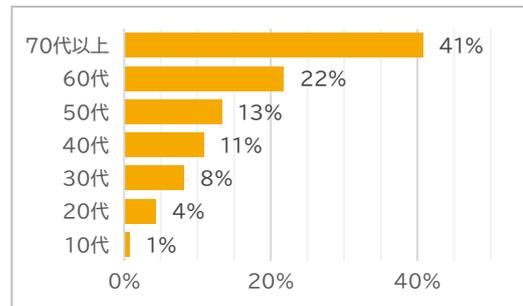
① 性別 (n=368)

回答者の性別は女性 48%、男性 45%と、女性が3ポイント上回りました。



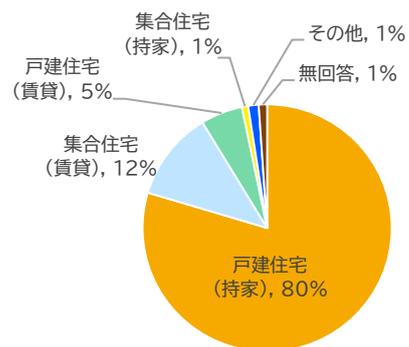
② 年代 (n=368)

年代層は70代以上が41%と最も多く、以下、年代の順に多い結果でした。



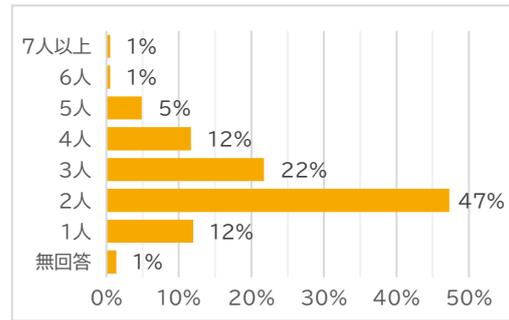
③ 住居形態 (n=368)

住居形態は戸建住宅（持家）が80%を占め、次いで集合住宅（賃貸）（12%）、戸建住宅（賃貸）（5%）と続きました。



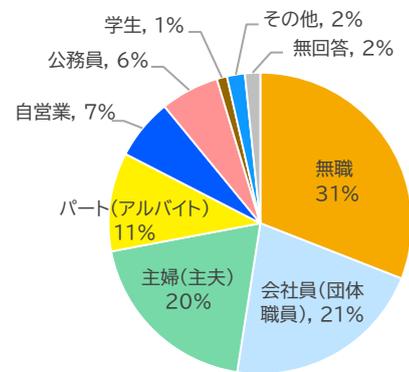
④ 世帯人数 (n=368)

世帯人数は2人世帯が47%と最も多く、次いで3人世帯(22%)、1人世帯(12%)、4人世帯(12%)と続きました。

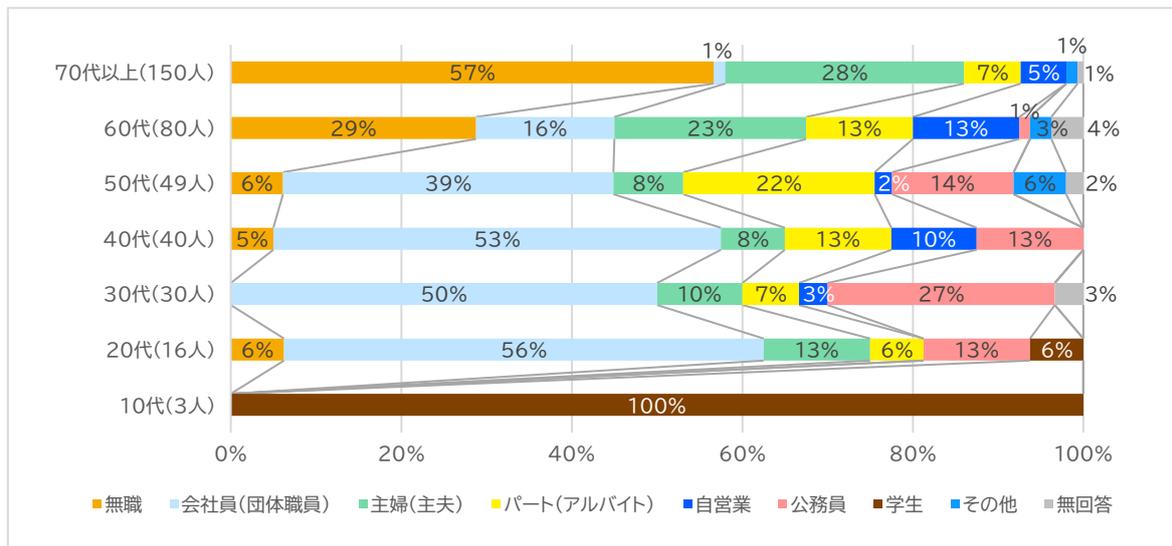


⑤ 職業 (n=368)

職業は無職が31%と最も多く、次いで会社員(団体職員)(21%)、主婦(主夫)(20%)と続きました。年代別では、10代は学生、20代～50代は会社員(団体職員)、60代～70代以上は主婦(主夫)・無職が多くを占めていました。



▶ 年代別×職業

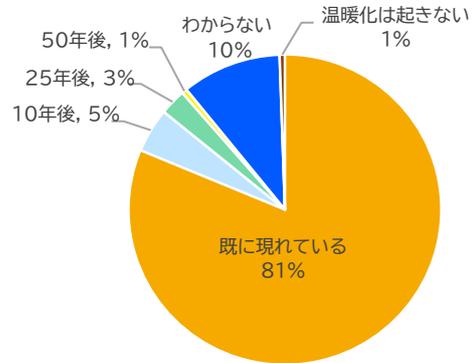


3-2 地球温暖化に関する認識について

①-1 北海道での地球温暖化の実感度 (n=368)

問2 あなたは、北海道で温暖化の影響が現れるのはどれくらい先だと思いますか？

「既に現れている」との回答が 81%を占めました。将来に現れるとする回答についても、時期は現時点から近い順に多く、「温暖化は起きない」との回答は 1%に留まりました。また、「わからない」との回答も 10%ありました。



▶ 他調査との比較

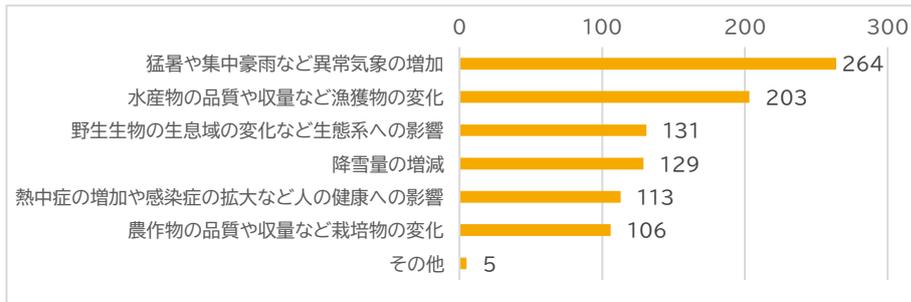
【全国】日本人の環境意識に関する世論調査
(平成 28 年度, 国立環境研究所)

→ 「既に実感している」 77%

①-2 既に現れていると選んだ理由 (n=299、複数回答)

問3 問2で「既に現れている」を選んだ方にお伺いします。どのようなことでそのように感じていますか？

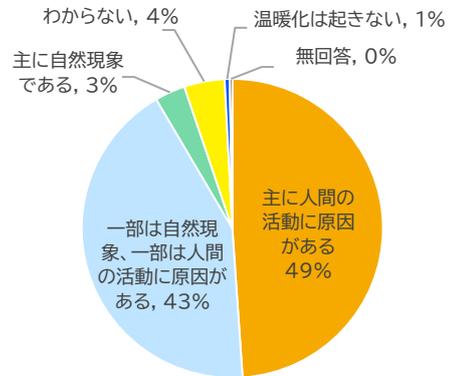
「猛暑や集中豪雨など異常気象の増加」(264 件) が最も多く、次に多い項目は「水産物の品質や収量など漁獲物の変化」(203 件) でした。



② 温暖化の原因 (n=368)

問4 温暖化の原因を考えたとき、あなたの考えに最も近いものはどれでしょうか？

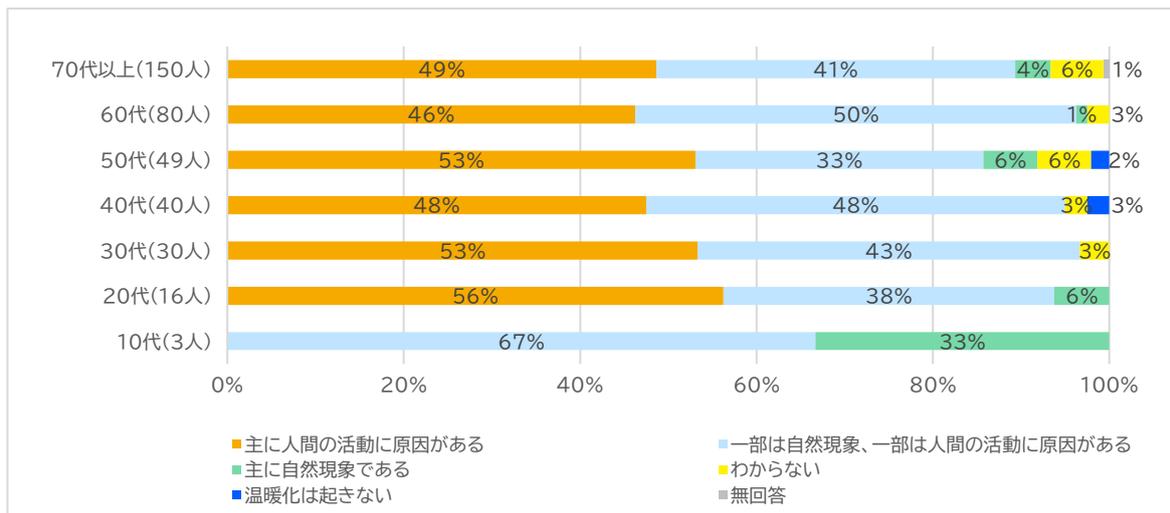
「主に人間の活動に原因がある」は49%、「一部は自然現象、一部は人間の活動に原因がある」は43%であり、合わせて92%を占めました。



▶ 他調査との比較

【全国】日本人の環境意識に関する世論調査 (平成28年度, 国立環境研究所)
→ 「おおかたは人間活動に原因」 37%
→ 「一部は自然現象、一部は人間の活動に原因」 41%

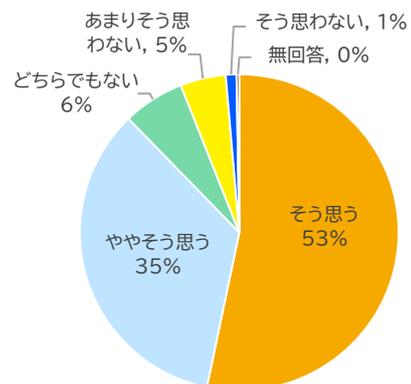
▶ 年代別×温暖化の原因



③ 温暖化防止のために暮らしを変革する必要性 (n=368)

問5 あなたは、温暖化の進行を食い止めるために、自身の暮らしや習慣を変えていかなければならないと思いますか？

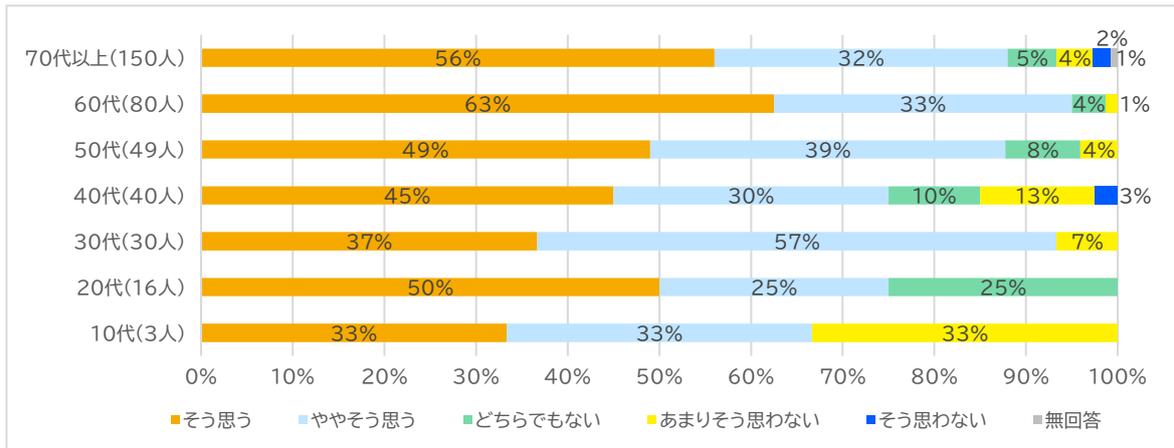
「そう思う」が53%、「ややそう思う」が35%であり、合わせて88%を占めました。



▶ 他調査との比較

【全国】日本人の環境意識に関する世論調査 (平成28年度, 国立環境研究所)
→ 「そう思う」+「ややそう思う」 73%

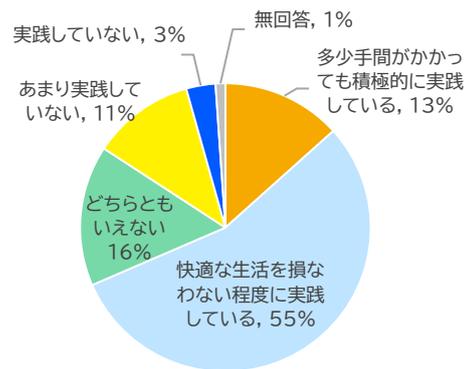
▶ 年代別×温暖化防止のために暮らしを変革する必要性



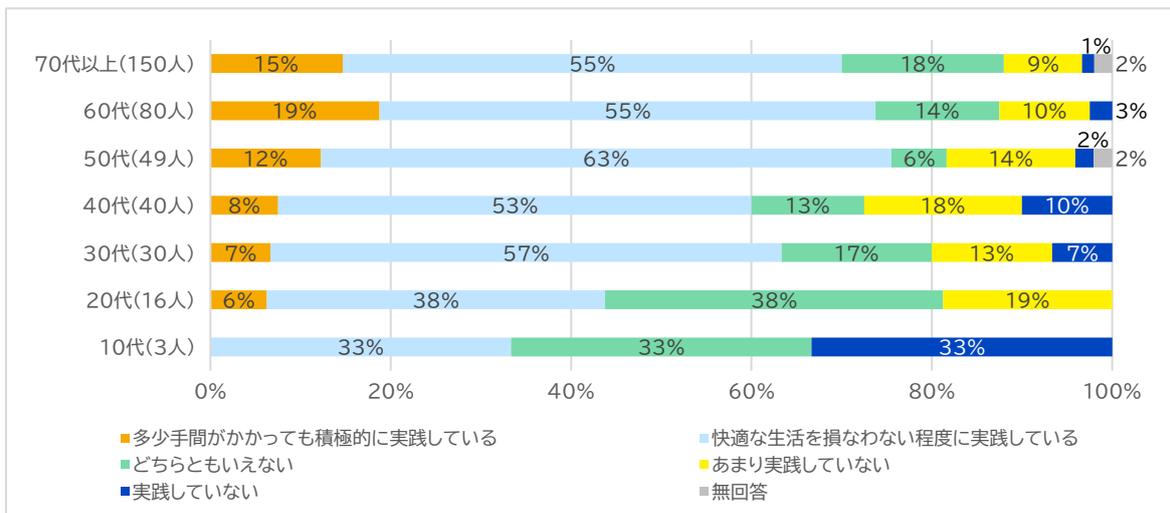
④ 温暖化防止につながる取組の実践度 (n=368)

問6 あなたは、暮らしの中で、省エネなど温暖化対策につながる取組を、どの程度実践していますか？

「快適な生活を損なわない程度に実践している」が55%と最も多く、次いで「どちらともいえない」(16%)、「多少手間がかかっても積極的に実践している」(13%)と続きました。



▶ 年代別×温暖化防止につながる取組の実践度



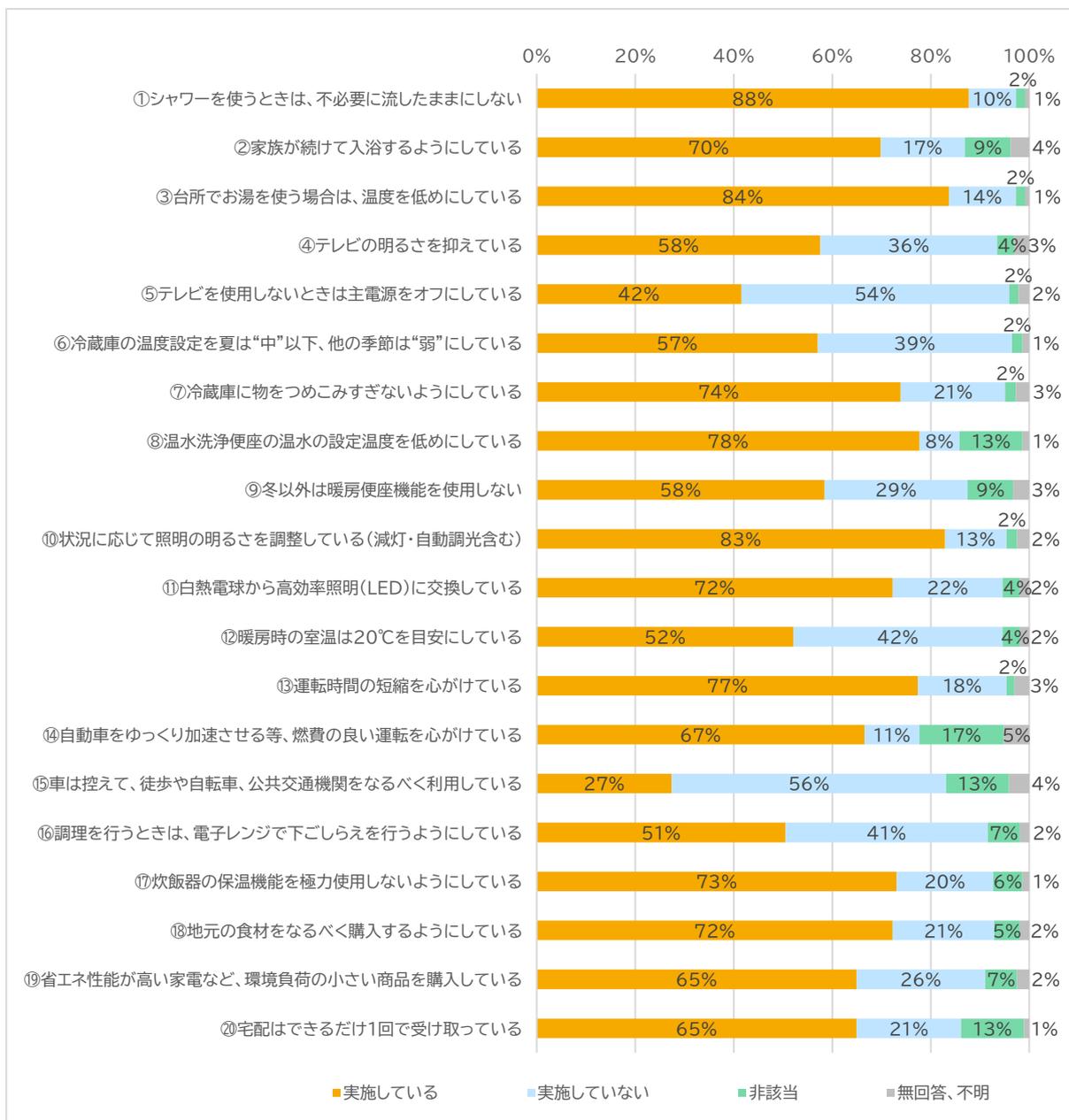
3-3 省エネルギー行動実践状況

① 省エネ行動実践状況 (n=368)

問7 以下の行動内容について、あなたの実施状況に最も近いものを選んで下さい。

実践率の高い省エネ行動は、①「シャワーを使うときは不必要に流したままにしない」(88%)、③「台所でお湯を使う場合は、温度を低めにしている」(84%)、⑩「状況に応じて照明の明るさを調整している(減灯・自動調光含む)」(83%)などでした。

一方、実践率の低いものは、⑮「車は控えて、徒歩や自転車、公共交通機関をなるべく利用している」(27%)、⑤「テレビを使用しないときは主電源をオフにしている」(42%)、⑯「調理を行う時は、電子レンジで下ごしらえを行うようにしている」(51%)などでした。

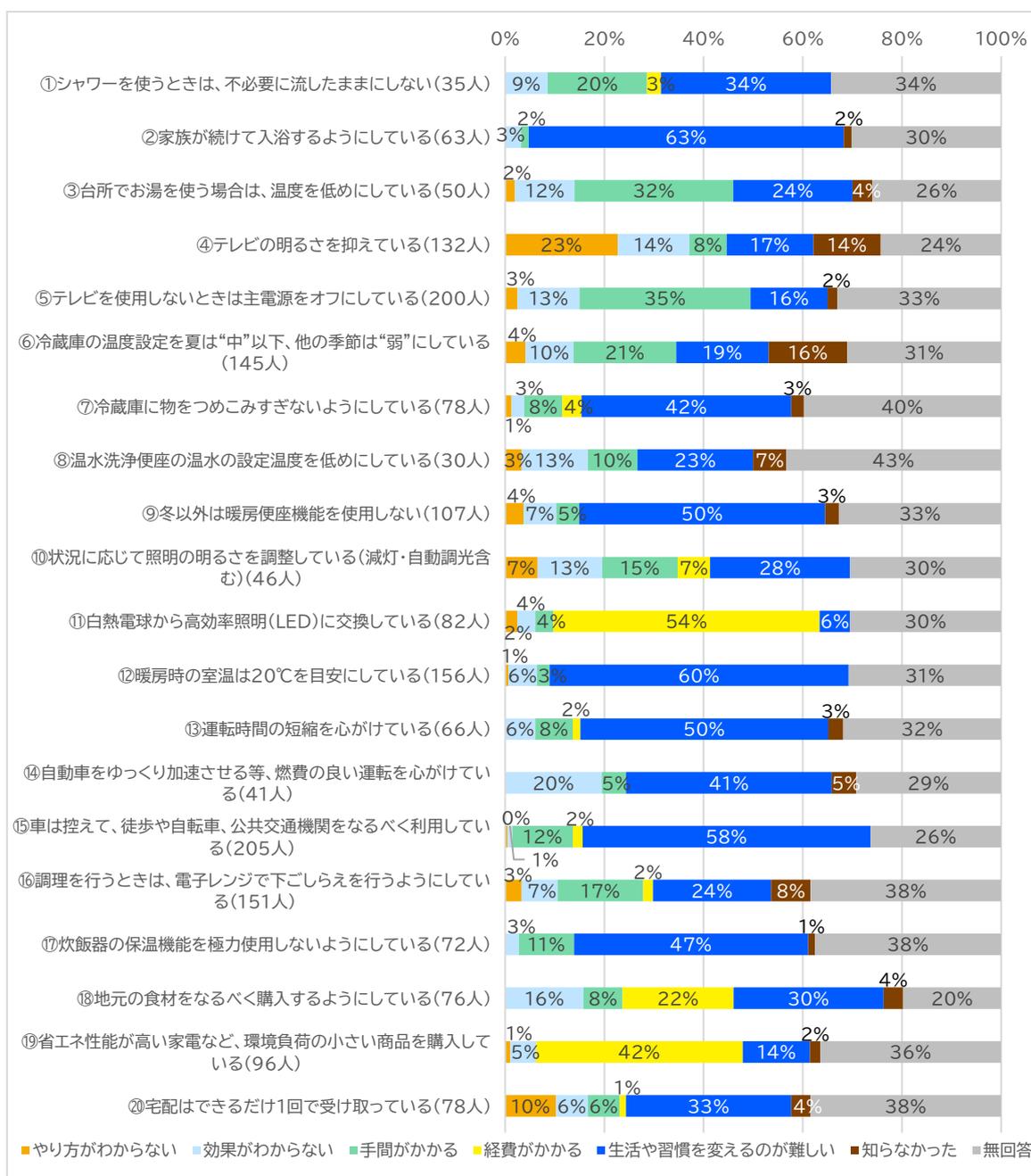


② 行動を実践していない理由

問7 実施していないと回答した場合、その理由を「実施していない理由の選択肢」から選んでください。

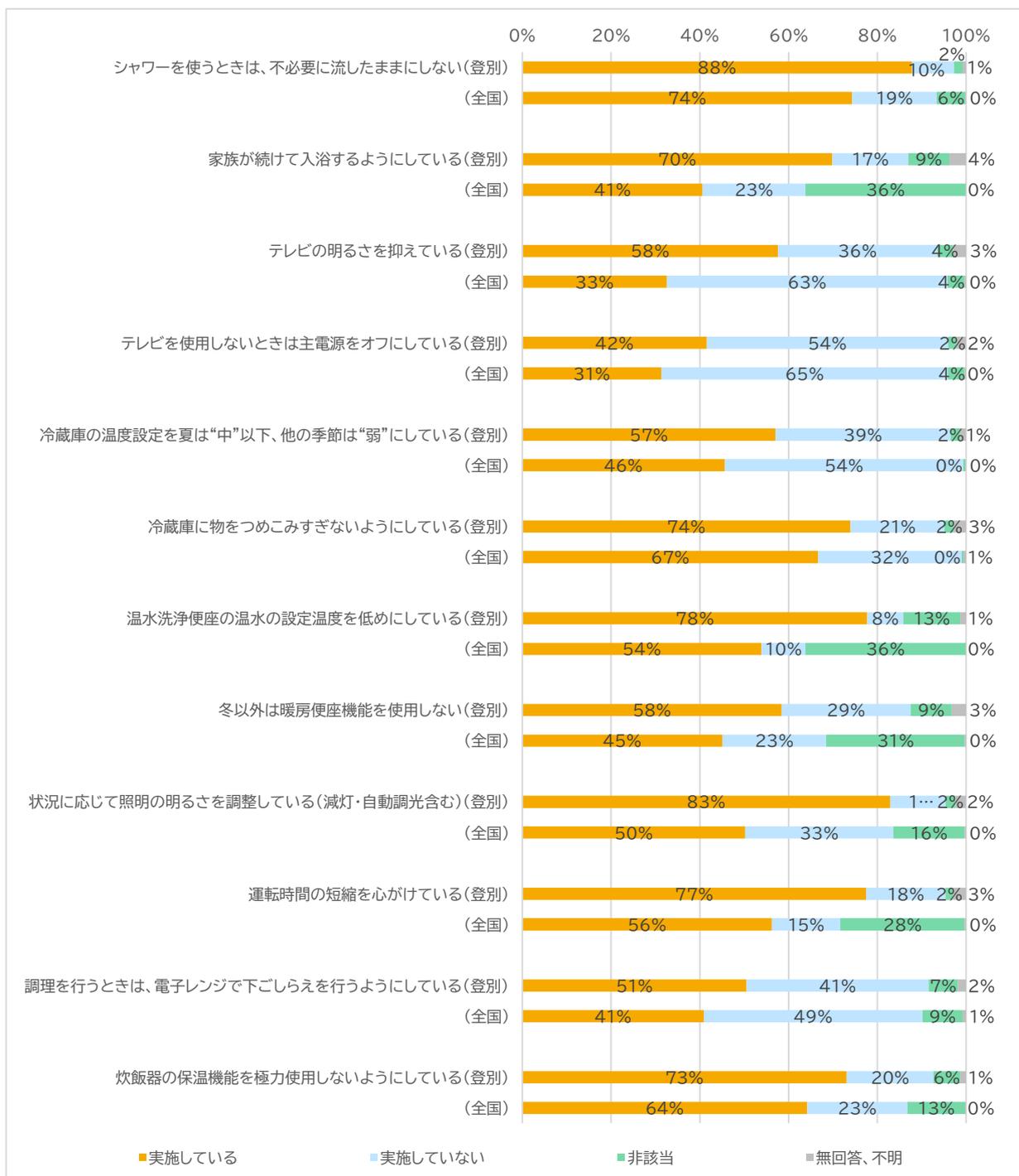
省エネルギー行動を実践していない理由は、「生活や習慣を変えることが難しい」という回答が多い傾向にあり、実践率が27%と最も低かった⑮「車は控えて徒歩や自転車、公共交通機関をなるべく利用している」では58%がこの理由からでした。

そのほか、直接的な費用負担を伴う⑪「白熱電球をLED電球に交換」、⑲「省エネ性能が高い家電など、環境負荷の小さい商品を購入している」では、「経費がかかる」が多くを占め、③「台所でお湯を使う場合は温度を低めにしている」、⑤「テレビを使用しないときは主電源をオフにしている」では「手間がかかる」が最も多い回答でした。



③ 登別市と全国の行動実践状況の比較（集計世帯数：登別市 368／全国 9,996）

「家庭部門の CO₂ 排出実態統計調査」（環境省、平成 30 年度）による全国の実践率と比較すると、比較可能な 12 項目の全てにおいて登別市の方が実践率が高くなっていました。中でも「家族が続けて入浴するようにしている」、「テレビの明るさを抑えている」、「状況に応じて照明の明るさを調整している」における実践率の差が大きく、全国に比べ 1.6～1.7 倍の実践率となっていました。

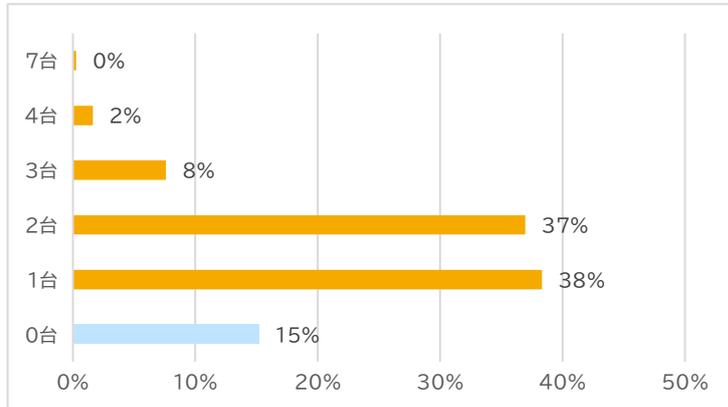


3-4 次世代自動車等導入状況

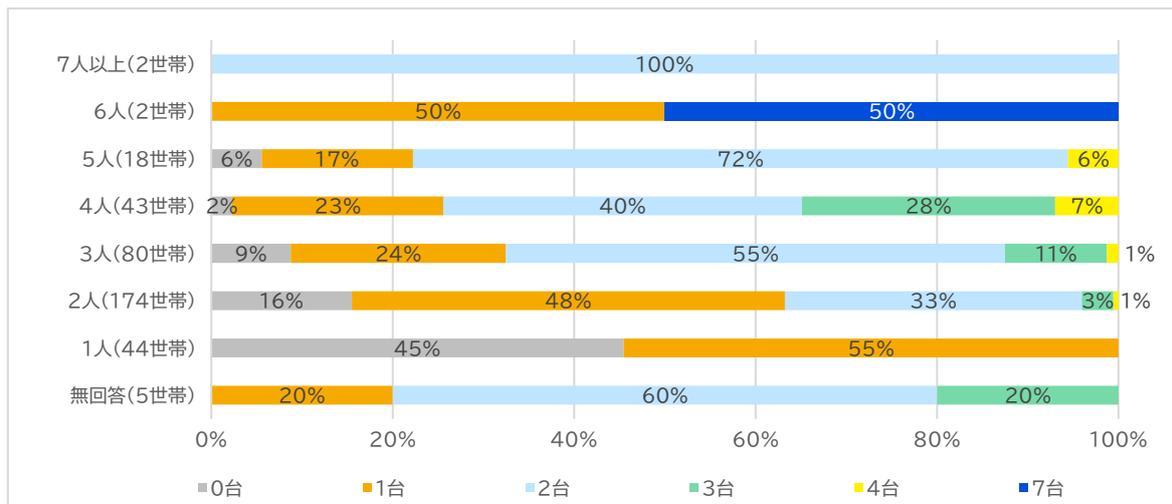
① 自動車の保有台数 (n=368)

各世帯における自動車保有台数は「1台」が38%と最も多く、次いで「2台」が37%でした。

「0台」の(自動車を保有していない)世帯は15%でした。1世帯当たりの平均保有台数は1.43台でした。

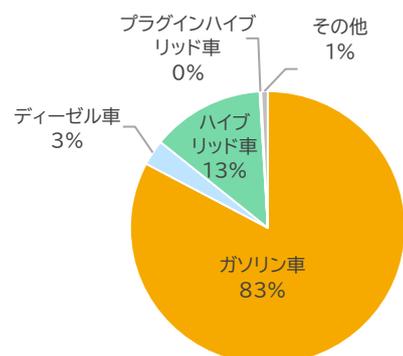


▶ 世帯人数別×自動車の保有台数



② 次世代自動車の普及状況 (368世帯、528台)

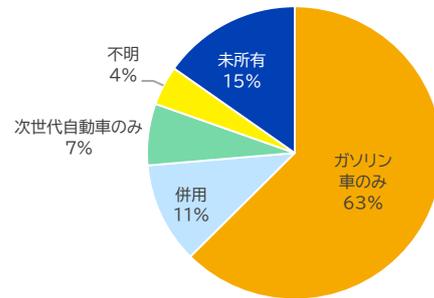
全世帯の自動車の保有台数を合計すると528台となり、そのうちの83%をガソリン車が占めました。次世代自動車として最も多かったのはハイブリッド車(13%)でした。



③ 次世代自動車の導入状況 (n=368)

世帯ごとに次世代自動車導入の有無を見ると、次世代自動車を導入済みの世帯は18%で、その内訳は「次世代自動車のみ使用している」世帯が7%、「ガソリン車と次世代自動車を併用している」世帯が11%でした。

自動車を所有していない世帯を除いた場合、次世代自動車を導入済みの世帯の割合は21%となりました。

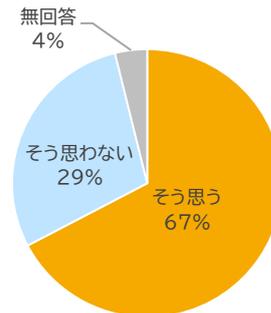


④-1 次世代自動車への買換え意向 (n=312)

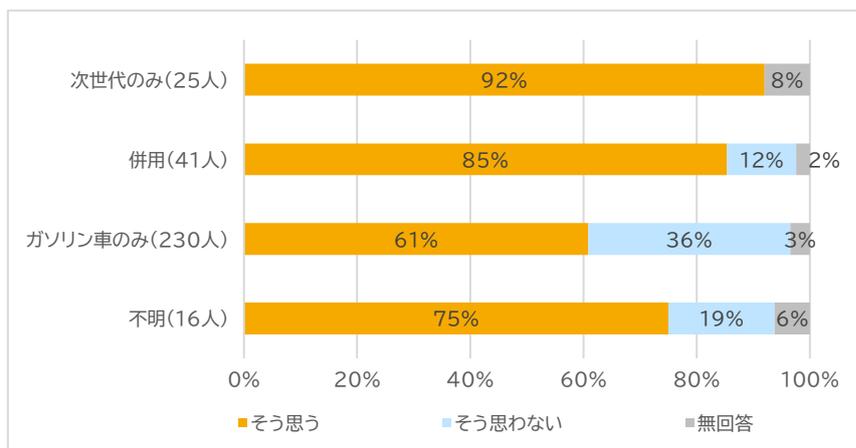
問9 家庭で自動車をお持ちの方にお聞きします。次に自動車を買換える際、次世代自動車を選ぼうと思えますか？

67%が「そう思う」（買換え時に次世代自動車を選ぼうと思う）と回答しました。

次世代自動車の導入有無で分けると、家庭ですでに次世代自動車を使用している回答者の間では特に、買換え時にも次世代自動車を選びたいとする回答が多くなっていました。



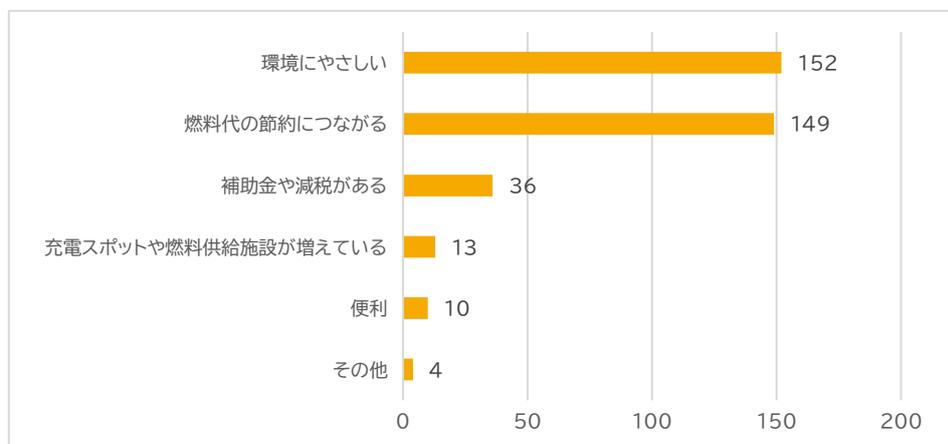
▶ 次世代自動車の導入状況×次世代自動車への買換え意向



④-2 買換え時に次世代自動車を選ぼうと思う理由 (n=210、複数回答)

問 10 問 9で「そう思う」と答えた方にお聞きします。その理由は何ですか？

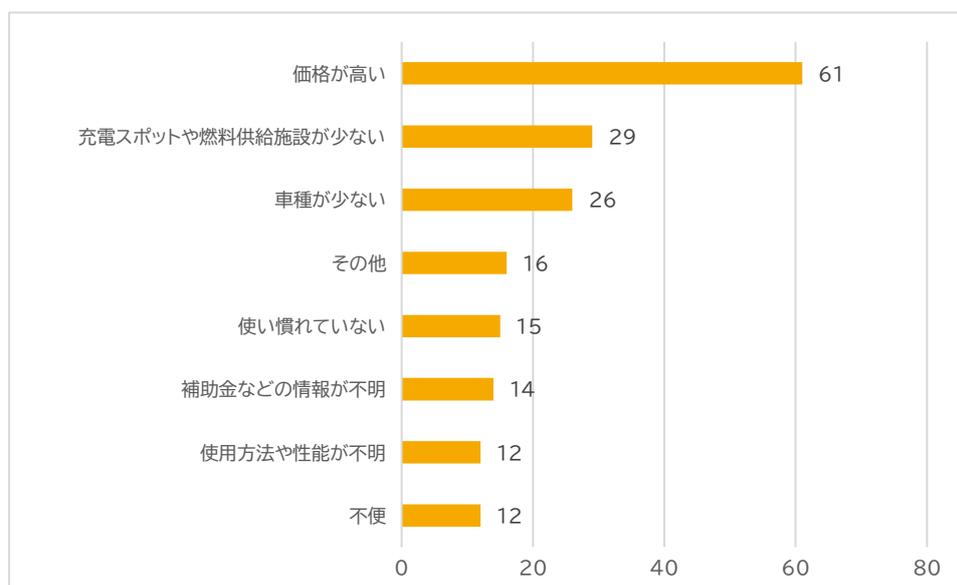
特に多い回答は「環境にやさしい」(152件)、「燃料代の節約につながる」(149件)でした。



④-3 買換え時に次世代自動車を選ぼうと思わない理由 (n=88、複数回答)

問 11 問 9で「そう思わない」と答えた方にお聞きします。その理由は何ですか？

最も多い回答は「価格が高い」(61件)でした。

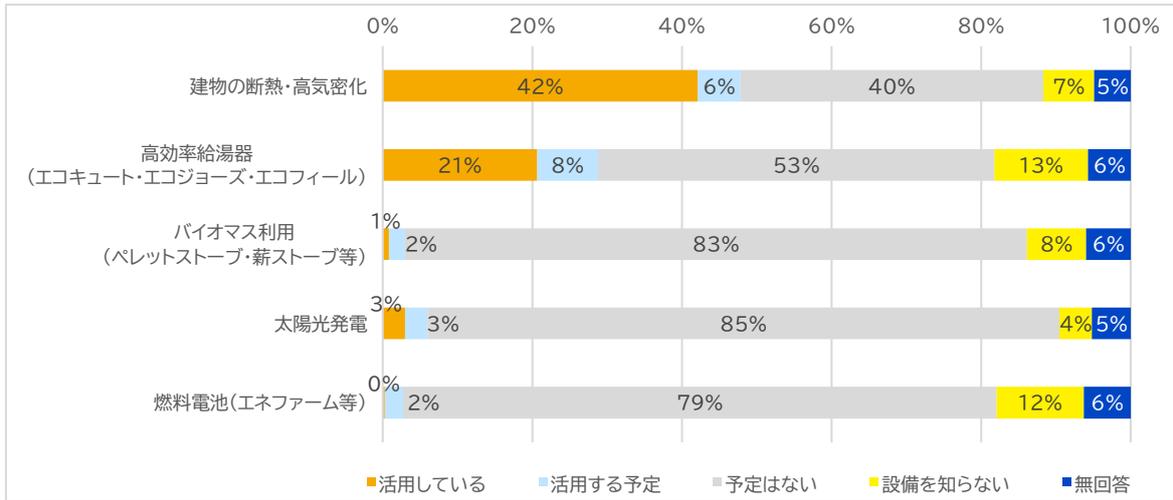


3-5 再生可能エネルギー等設備導入状況

① 設備導入状況 (n=368)

問 12 以下の再生可能エネルギーや省エネルギー設備に関して、ご家庭で実際に活用しているもの、または活用する予定のものはありますか？

再生可能エネルギーや省エネルギー設備を導入済み（導入予定）の割合は、「建物の断熱・高気密化」の 42%（6%）、高効率給湯器の 21%（8%）が特に高い結果でした。

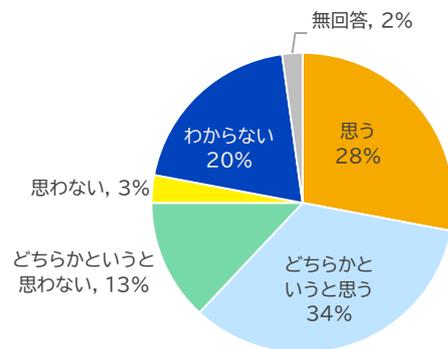


3-6 暮らしの質や地域の豊かさと温暖化対策の関係

①-1 暮らしの質の向上と温暖化対策 (n=368)

問 13 省エネ行動や再エネ・省エネ設備導入などの温暖化対策は、あなたの暮らしの質の向上につながるとお考えですか？

「どちらかというと思う」が 34%と最も多く、次いで「思う」が 28%と続いており、暮らしの質を向上させると考える層は合わせて 62%となりました。



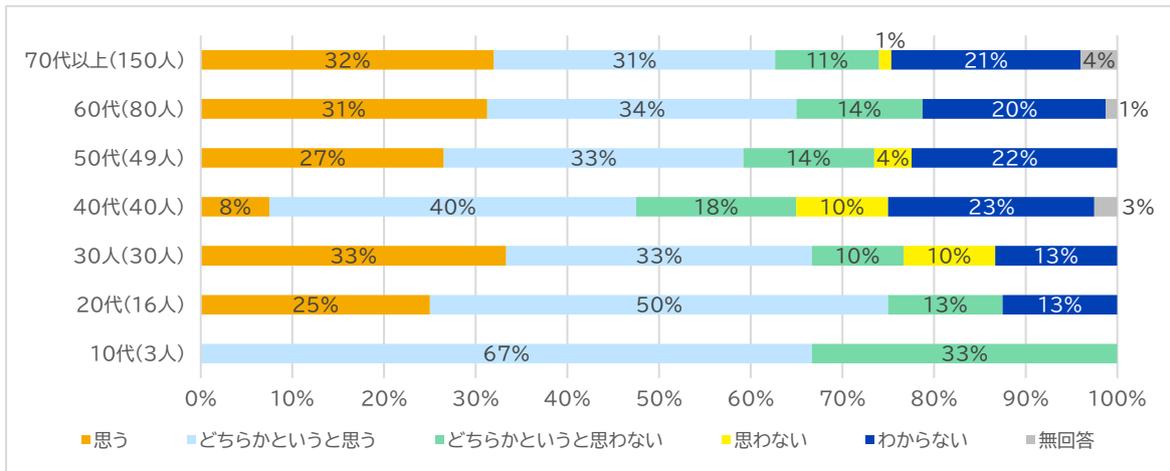
▶ 他調査との比較

世界市民会議「気候変動とエネルギー」における調査（平成 27 年度，科学技術振興機構）

→ 【世界全体】「生活の質を高める」66%

→ 【日本】「生活の質を高める」17%

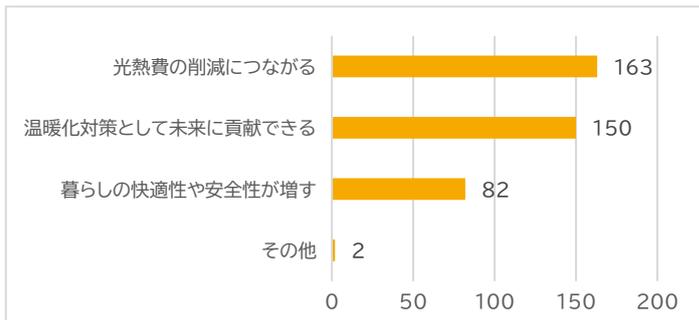
▶ 年代別×温暖化対策は暮らしの質の向上につながると思うか



①-2 暮らしの質の向上につながると思った理由 (n=228, 複数選択)

問 14 問 13 で「思う」「どちらかと思う」を選んだ方にお伺いします。そう思った理由は何ですか？

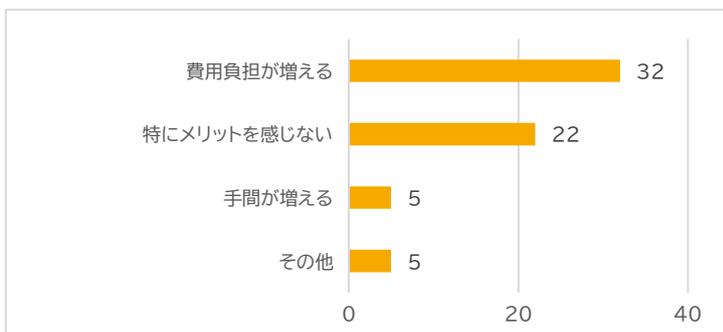
最も多い回答は「光熱費の削減につながる」(163件)でした。



①-3 暮らしの質の向上につながらないと思った理由 (n=59, 複数選択)

問 15 問 13 で「どちらかと思わない」「思わない」を選んだ方にお伺いします。そう思った理由は何ですか？

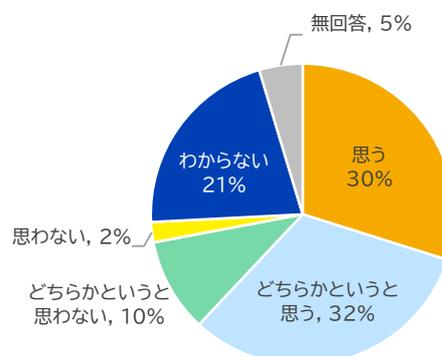
最も多い回答は「費用負担が増える」(32件)でした。



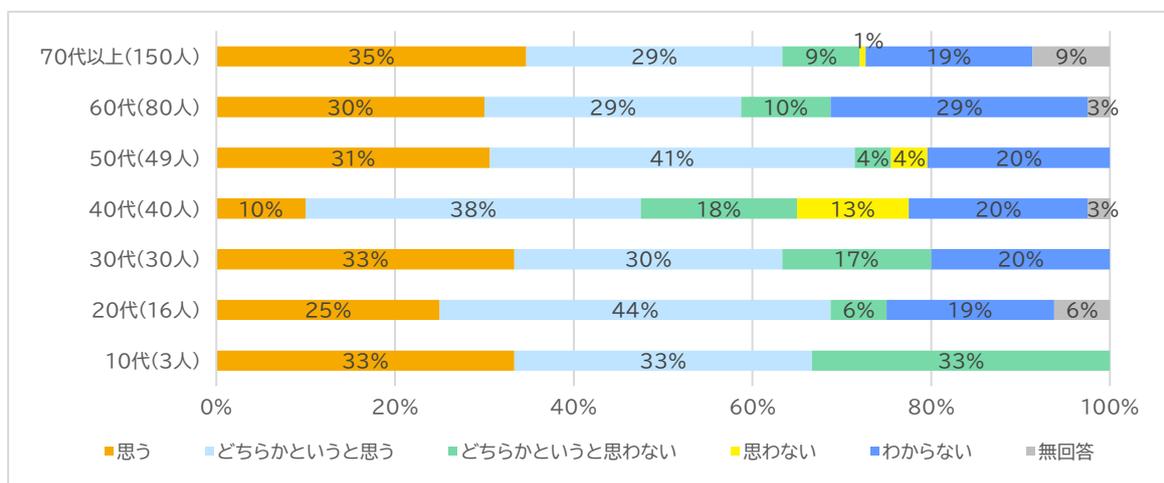
②-1 地域の豊かさの向上と温暖化対策 (n=368)

問 16 省エネ行動や再生可能エネルギー設備導入などの温暖化対策を進めることは、地域の豊かさの向上につながると思いますか？

「どちらかというと思う」が 32%と最も多く、次いで「思う」が 30%と続いており、地域の豊かさを向上させると考える層が合わせて 62%を占めました。



▶ 年代別×温暖化対策は地域の豊かさの向上につながると思うか



②-2 地域の豊かさの向上につながると考えた理由 (n=228、複数選択)

問 17 問 16 で「思う」「どちらかというと思う」を選んだ方にお伺いします。そう思った理由は何ですか？

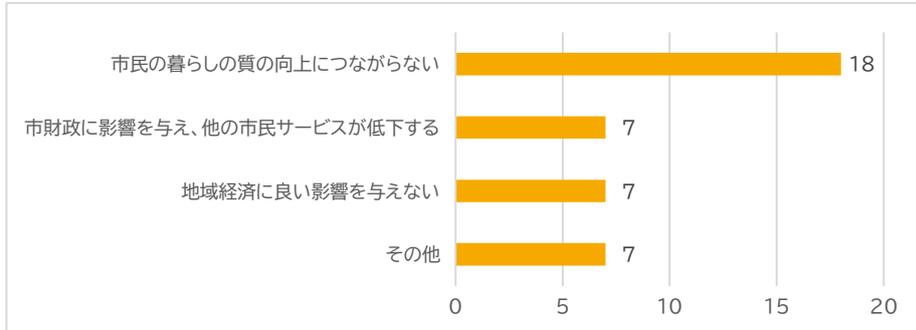
最も多い回答は「災害時の備えとなり快適性や安全性が増す」(179件)でした。



②-3 地域の豊かさの向上につながらないと考えた理由 (n=45、複数選択)

問 18 問 16 で「どちらかというと思わない」「思わない」を選んだ方にお伺いします。そう思った理由はなぜですか？

最も多い回答は「市民の暮らしの質の向上につながらない」(18件)でした。

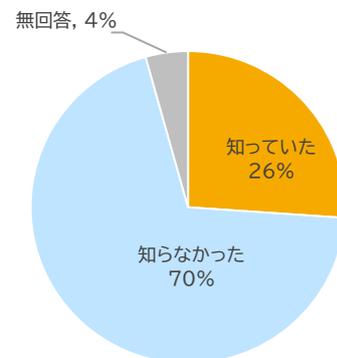


3-7 クールチョイスの認知度、市環境方策の重要度

① 国民運動クールチョイスの認知度 (n=368)

問 19 政府では、国民一丸となって温暖化対策に資するあらゆる「賢い選択」をしていこうという国民運動「クールチョイス」を展開していますが、このことをご存知でしたか？

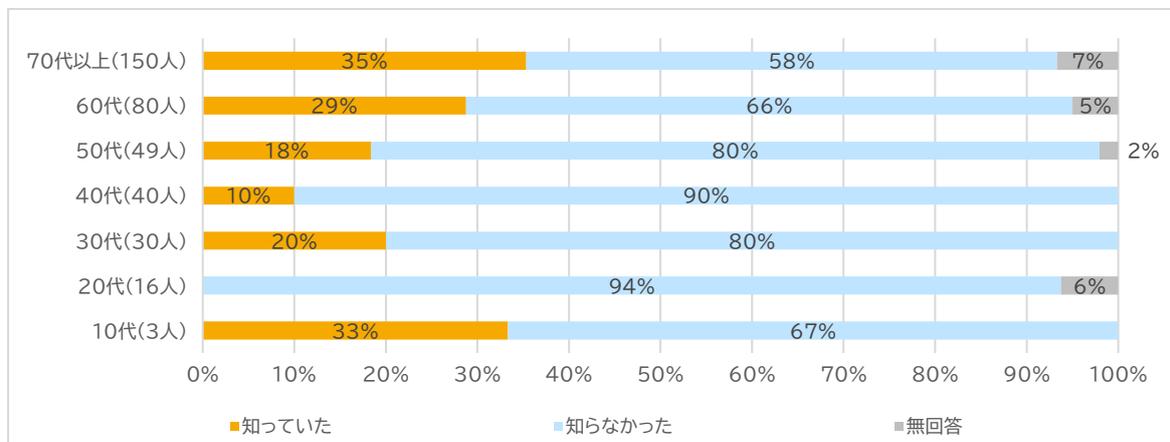
国民運動「クールチョイス」の認知度は26%でした。



▶ 他調査との比較

【全国】地球温暖化対策に関する世論調査
(平成28年度、内閣府)
→ クールチョイス認知度 28%

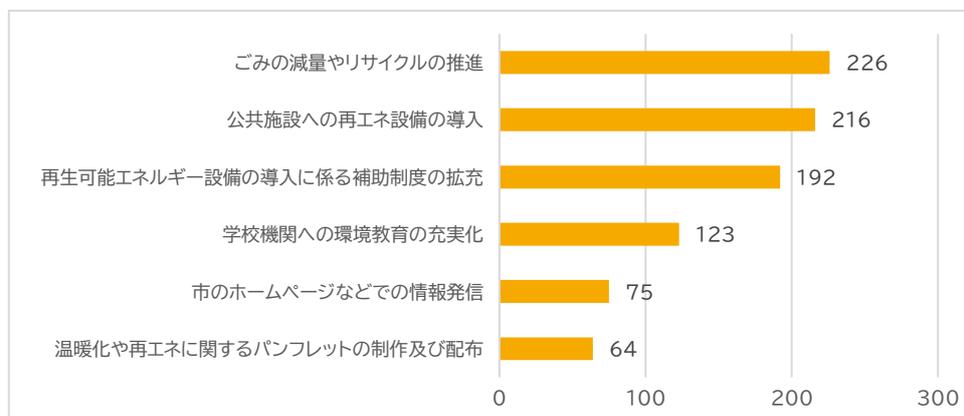
▶ 年代別×クールチョイスの認知度



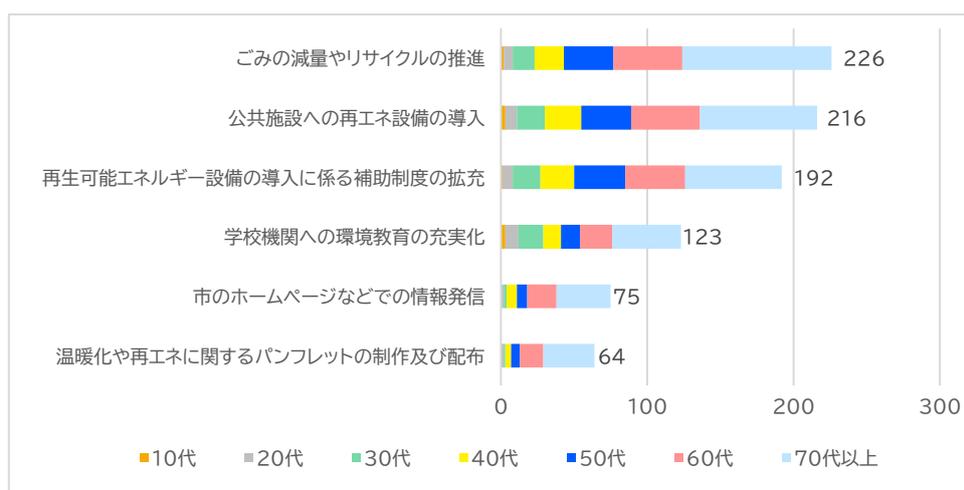
② 市方策の重要度 (n=368、6個の選択肢から3個まで選択)

問 20 地球温暖化対策を推進していくためには、登別市でどのような方策が重要だと思いますか？

「ごみの減量やリサイクルの推進」(226件)が最も多く、次いで「公共施設への再エネ設備の導入」(216件)、「再エネ設備の導入に係る補助制度の拡充」(192件)と続きました。



▶ 年代別×市方策の重要度



アンケート調査票

問7 以下の行動内容について、あなたの実施状況に最も近いものにそれぞれ1つ「○」をつけてください。また、実施していないと回答した場合、その理由を以下の<実施していない理由の選択肢>から選び、右欄<実施していない理由>に番号を記入してください。

<実施していない理由の選択肢>

- 1 やり方がわからない 2 省エネによる効果がわからない 3 手間がかかる
 4 経費がかかる 5 生活や習慣を変えるのが難しい 6 知らなかった

番号を記入

行 動 内 容		実 施 状 況	実施して いない理由
給湯	シャワーを使うときは、不必要に流したままにしない	実施している ・ 実施していない ・ 非該当	
	家族が続けて入浴するようにしている	実施している ・ 実施していない ・ 非該当	
	台所でお湯を使う場合は、温度を低めにしている	実施している ・ 実施していない ・ 非該当	
テレビ	テレビの明るさを抑えている	実施している ・ 実施していない ・ 非該当	
	テレビを使用しないときは主電源をオフにしている	実施している ・ 実施していない ・ 非該当	
冷蔵庫	冷蔵庫の温度設定を夏は“中”以下、他の季節は“弱”にしている	実施している ・ 実施していない ・ 非該当	
	冷蔵庫に物をつめこみすぎないようにしている	実施している ・ 実施していない ・ 非該当	
トイレ	温水洗浄便座の温水の設定温度を低めにしている	実施している ・ 実施していない ・ 非該当	
	冬以外は暖房便座機能を使用しない	実施している ・ 実施していない ・ 非該当	
照明	状況に応じて照明の明るさを調整している(減灯・自動調光含む)	実施している ・ 実施していない ・ 非該当	
	白熱電球から高効率照明(LED)に交換している	実施している ・ 実施していない ・ 非該当	
暖房	暖房時の室温は20度を目安にしている	実施している ・ 実施していない ・ 非該当	
	運転時間の短縮を心がけている	実施している ・ 実施していない ・ 非該当	
移動	自動車をゆっくり加速させる等、燃費の良い運転を心がけている	実施している ・ 実施していない ・ 非該当	
	車は控えて、徒歩や自転車、公共交通機関をなるべく利用している	実施している ・ 実施していない ・ 非該当	
家電・調理	調理を行うときは、電子レンジで下ごしらえを行うようにしている	実施している ・ 実施していない ・ 非該当	
	炊飯器の保温機能を極力使用しないようにしている	実施している ・ 実施していない ・ 非該当	
商品選択	地元の食材をなるべく購入するようにしている	実施している ・ 実施していない ・ 非該当	
	省エネ性能が高い家電など、環境負荷の小さい商品を購入している	実施している ・ 実施していない ・ 非該当	
その他	宅配はできるだけ1回で受け取っている	実施している ・ 実施していない ・ 非該当	

問8 あなたのご家庭では、どのような種別の自動車をお持ちですか？種別ごとに台数を記入してください。自動車をお持ちでない場合は、「持っていない」に○をつけてください。

ガソリン車	台	ハイブリッド車	台	電気自動車	台
ディーゼル車	台	燃料電池自動車	台	プラグインハイブリッド車	台
天然ガス自動車	台	その他（	車）	台	持っていない⇒【問12へ】

問9 次に自動車を買換える際、次世代自動車を選ぼうと思いませんか？該当するもの1つに「○」をつけてください。

※ ここでは、次の種別の自動車を「次世代自動車」とします。

（ハイブリッド車、電気自動車、クリーンディーゼル車、燃料電池自動車、プラグインハイブリッド車、天然ガス自動車）

そう思う	・	そう思わない
⇒【問10へ】		⇒【問11へ】

問10 問9で「そう思う」と答えた方にお聞きします。その理由は何ですか？該当するもの全てに「○」をつけてください。

便利	・	環境にやさしい	・	燃料代の節約につながる	・	補助金や減税がある
充電スポットや燃料供給施設が増えている	・	その他（				）

問11 問9で「そう思わない」と答えた方にお聞きします。その理由は何ですか？該当するもの全てに「○」をつけてください。

不便	・	価格が高い	・	補助金などの情報が不明	・	使用方法や性能が不明
充電スポットや燃料供給施設が少ない	・	車種が少ない	・	使い慣れていない		
その他（						）

問12 以下の再生可能エネルギーや省エネルギー設備の中で、ご家庭で実際に活用しているもの、または活用する予定のものはありますか？あなたの活用状況に最も近いものにそれぞれ1つ「○」をつけてください。

設備名称	活用状況
建物の断熱・高気密化	活用している ・ 活用する予定 ・ 予定はない ・ 設備を知らない
高効率給湯器 (エコキュート・エコジョーズ・エコフィール)	活用している ・ 活用する予定 ・ 予定はない ・ 設備を知らない
バイオマス利用 (ペレットストーブ・薪ストーブ等)	活用している ・ 活用する予定 ・ 予定はない ・ 設備を知らない
太陽光発電	活用している ・ 活用する予定 ・ 予定はない ・ 設備を知らない
燃料電池 (エネファーム等)	活用している ・ 活用する予定 ・ 予定はない ・ 設備を知らない

問13 上記のような省エネ行動や再エネ・省エネ設備導入などの温暖化対策は、あなたの暮らしの質の向上に繋がると思いませんか？ 該当するもの1つに「○」をつけてください。

思う	・	どちらかというと思う	・	どちらかというと思わない	・	思わない	・	わからない
⇒【問14へ】				⇒【問15へ】				

令和2年2月

北海道地球温暖化防止活動推進センター（公益財団法人北海道環境財団）

〒060-0004

札幌市中央区北4条西4丁目1番地 伊藤・加藤ビル4階

TEL : 011-218-7811 FAX : 011-218-7812

ホームページ <http://www.heco-spc.or.jp>
